

奈弓連だより

通巻 199号

平成 30 年 9 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 野尻賢司 山本悦子

連絡先 : henshu@narakyudo.jp

全日・国体・ねりんピック壮行射会 + 県トーナメント射会

全日・国体・ねりんピック・都道府県対抗戦の壮行射会が9月2日(日)に橿原公苑弓道場において87名が参加して行われました。選手の方々は多くの声援を受け、気を引き締め各大会に向かってますます精進されることと思います。今年も前川彰吾さんが元気な声で選手の皆さんに力強いエールを送られました。

午後はトーナメント射会(国体選手との交歓射会)が近代的競技の団体戦(団体3人)で行われました。結果は次の通りです。

予選通過チーム

・林 秀子	土谷 ひろみ	揚田 よう子	8 中
・片山 猛	安田 生子	恒成 隆一	5 中
・前川なつき	松澤 和実	白井 礼子	6 中
・辻本 元威	矢野 有吾	山口 亮二	10 中
・阪中 計夫	山本元祥	竹村邦夫	8 中
・長濱 有美	境 陽子	西田 ゆり	5 中
・中西 省五	木下 孝広	太田 保信	5 中

国体選手(シード)【成年男子】

・今西 達也 奥田 章人 新子 修平

決勝トーナメント

1位:	辻本 元威	矢野 有吾	山口 亮二
2位:	今西 達也	奥田 章人	新子 修平
3位:	林 秀子	土谷 ひろみ	揚田 よう子
	長濱 有美	境 陽子	西田 ゆり

(競技部 西田ゆり)

シニア部研修会および記録会

健康長寿のためにも日頃から正しい姿勢を

9月12日(水曜日)橿原公苑弓道場において、第4回「シニア部研修会および記録会」が行われました。小雨模様でしたが、初秋を感じさせる気候の中、元気なシニア年齢の会員54名が参加しました。開会式では、新司副会長が「皆さんは、ぜひ25歳ぐらいの気持ちで元気に本日の研修・記録会に取り組んでください」と激励の挨拶。

矢渡しは、射手が土谷尚敬錬士六段、第一介添が平田ゆり子錬士五段、第二介添が安田生子五段で行われました。引き続き、講師の吉本清信範士九段、竹村邦夫教士七段、新司教士七段、阪中教士六段、野尻

祥枝教士六段による持ち的射礼が行われました。緊張感の中でも息のあった美しい所作と軽妙な行射が受講生の心を捉えていました。

その後、受講生が一手行射。講師はメモを取り、午後の射技研修に備えておられました。主任講師の吉本先生からは健康長寿のため弓道で大切なことは日頃からの正しい姿勢に留意すること、射技研修では、特に縦線の構成・三重十文字を意識して取り組むようにとアドバイスがありました。

午後の射技研修では受講生が4班に別れて、指導講師から一手ずつ、手を添えながらの丁寧な指導を受けました。最後に、坐射による四つ矢一立を行い、締めくくりとしました。



普段、中々直接指導をいただけない先生方からの指導機会も得られ、受講生には大変好評でした。

(シニア部 西尾信行)

奈良定期地連審査

初段 70名 弐段 7名 参段 6名 合格

8月26日に、橿原公苑弓道場において第277回定期地連審査が行われました。結果は次のとおりです。

級位	受審者 39名	合格 35名	(1級 27名、2級 8名、現級 4名)
初段	受審者 77名	欠席 1名	合格 70名
弐段	受審者 13名	合格 7名	
参段	受審者 11名	合格 6名	
四段	受審者 2名	合格 0名	

(審査部 平木一史)

三人の師との出会い： 同じ空気を吸い、同じ時代を歩めたことに万謝

五條支部 教士六段 上田 康夫

「モヤシの様な子が歩いてきた」

1967年（昭和42年）春、ピンクの芝桜が道場への飛び石の周りを囲むように咲くなか、足を踏み外さないように歩きながら私は最初の師、大畑三千夫先生にお会いしました。この「モヤシの様な子」は先生が初めて私を見た時の第一印象だったそうです。後年、先生の道場内のお屋敷で私の昇段祝いを催して下さった折に明かされました。

24時間365日弓を志す者に道場を開放し、昇段大会等の入賞その時々に分け隔てなく我が子のように喜び、祝いの宴を開き共に喜んで下さいました。何百人がこの道場を使用しお世話になったことでしょうか。幸いなことに、私は大畑先生のお傍に長く居させていただくことが出来ました。唯一の心残りは、私が病気だったために、先生の最後をお見送り出来なかったことです。先生は平成28年夏に102歳で天寿を全うされました。「与えて欲せず」これは大畑三千夫先生、利子奥様お二人の無言の教えでした。

「あの月に届くまで押しなさい」

1984年（昭和59年）秋、射位に月の青い光が差し込むなか、大畑師範の屋敷の裏木戸が開き下駄の音がして道場に須田三郎先生が入ってこられました。私の射を見て、「あの月に届くまで押しなさい。」甘いお酒の香りをまといながら、それだけ言ってまた屋敷へ戻っていかれました。

その翌年3月、私は念願の錬士を認許されたのです。須田先生との出会いは、私がまだ高校生の時、それ以来先生の背を見続けてきた50年・・・半世紀です。伊藤登会長の下での連盟事務局、教師と部活動の指導、県高体連、全国高体連弓道専門部長、日中交流事業で河南省への単身赴任等の役割を果たされてこられました。

人は大人になれば就職、結婚、夫となり子を作り親となり育て、そして身の保身、出来れば出世し小銭をもって人生を送り老いて、そして逝くことがほとんどの人が歩む一生だと思っていました。

須田先生には人それぞれ色々な生き方があることを、身をもって教えて頂きました。あえて文字にすることは控えます。先生に巡り会わなければ私の67年の人生はこんな充実感に充たされたものにはならなかったことは確かです。今もご健康でご活躍の姿を拝見し嬉しく、そして未だご恩返しができていないことをお詫び申し上げます。

「2時間かけて菊池先生の道場に通ったよ」

1992年（平成3年）5月、私が六段に昇段したころ須田三郎先生から「そろそろ五條から出て新たな先生に師事し指導を仰ぐ時期だ」と言われました。新たな師範となれば吉本清信先生以外県内にはおられず、すでに須田先生も布目で月1回研修をされているとのこと、決心も定まらぬまま吉本先生にお伺いする話の中で「五條から布目だと奈良県の端から端までですから1時間以上はかかります。」しかも平日、木曜日に仕事を終えて通うことは無理と思いました。そのとき吉本先生が「私は2時間かけて菊池先生の道場に通ったよ」とおっしゃったのです。そして先生のこの言葉に心を突き動かされ、私の月1回の「布目通い」が始まりました。

平成4年第43回全日本弓道選手権大会（伊勢）で先生は2度目の天皇杯は逃されましたが、最高得点者となりました。大会前夜、本会場での練習後お母様のご病気の様態を診察するため深夜、布目を往復されたことは、誰も知らなかったと思います。

ひとつの事を追求することの覚悟、峻厳な態度で臨まなければ事は成せないことを、布目通いを通じて学び、また先生の温厚篤実な人柄に触れることができたことは、至上の喜びです。

最後に三人の師と同じ空気を吸い同じ時代を歩めたことを万謝して話の結びと致します。



平成4年 全日本弓道選手権大会の前日に、伊勢のおかげ横丁の食堂で「若かりし勇者たち！」が記念撮影です。

上段 左から吉本清信、筆者、及川好布（吉本先生が岩手時代一緒に菊池先生通いた仲間）、高橋良子（第18回優勝者）本多政和、川村光良 の各先生

全国高等専門学校弓道大会

奈良工業高専が女子団体優勝、他3部門で入賞

8月29日(水)・30日(木)、鹿児島アリーナ弓道場において開催された第5回全国高等専門学校弓道大会で奈良工業高専は女子団体の部で優勝および射道優秀賞(団体)に輝きました。さらに男子団体の部では第3位に加えて吉村勇人選手が射道優秀賞(個人・男子)に選出されました。このように奈良工業高専は合わせて4部門で入賞することが出来ました。射道優秀賞(団体)については昨年大会でも男子が団体で受賞しており、二年連続受賞となりました。これらの結果は、奈弓連、高体連弓道専門部、ならびに大和郡山市弓道協会の諸先生方のご指導なしには到底得られないものです。部員・顧問教員一同、心より感謝しております。



女子団体優勝、他3部門で入賞を果たし、大喜びの選手達
(奈良工業高専弓道部顧問 谷口幸典)

全国中学生弓道大会 JOC ジュニアオリンピックカップ 男子団体:香芝中3位、女子団体:樫原中5位 女子個人:山田春奈(樫原中)選手 6位

8月18日(土)、19日(日)に全日本弓道連盟中央道場にて、第15回全国中学生弓道大会 JOC ジュニアオリンピックカップが開催され、47都道府県中、男子44団体、男子個人45名、女子45団体、女子個人44名の選手が参加しました。前年度優勝校と技能優秀校には優先出場の枠が設けられます。今年度も、前年度と同様に、中央道場と至誠館道場の2会場を同時並行で行う形式で、前日の公開練習でも矢数をかけて調整することができました。大会の期間中、非常に涼しく、弓を引きやすい大会でした。そのような中、奈良県勢は男女個人、団体の部で決勝トーナメント進出を果たすことができました。多くの方々にご協力、応援して頂き、この結果が出せたと思っております。ご指導頂いた連盟の先生方はじめ、高校の先生・先輩方に、心より感謝申し上げます。県中体連として、次回も男女で入賞が果たせるよう精進して参りたいと思います。応援ありがとうございました。
奈良県勢の結果は次の通りです。

予選:男子個人 8射5中以上で通過

片山創太(天理南中3年)8射6中で予選通過

女子個人 8射5中以上で通過

山田春奈(樫原中3年) 8射6中で予選通過

男子団体 各人8射 計24射の総的中上位16チームが通過

香芝中(山口、樋口、村上、角田)

24射13中で予選通過

女子団体 男子と同様

樫原中(上竹、柏木、都築、土岐)

24射13中で予選通過

決勝

男子個人 片山創太選手

射詰め1本目×、遠近競射で入賞ならず

女子個人 山田春奈選手

射詰め1本目×、遠近競射で6位入賞

男子団体 香芝中

1回戦 対 米ノ津中(鹿児島県)

6中 対 5中 で勝利

準々決勝 対 河口湖南中(山梨県)

5中 対 5中 同中競射

2中 対 1中 で勝利

準決勝 対 報徳学園中(兵庫県)

5中 対 10中 で敗退

結果 香芝中は3位入賞

女子団体 樫原中

1回戦 対 清真学園中(茨城県)

3中 対 2中 で勝利

準々決勝 対 日陽館中(愛媛県)

3中 対 4中 で敗退

結果 樫原中は5位入賞

(中体連 松田翔太)

奈良市弓道近的選手権大会兼会長杯争奪戦

男子会長杯:新司正人選手(奈良市協会)、

女子会長杯:水野さらら選手(西の京高校)に

9月9日(日)、奈良市弓道協会主催で第30回奈良市弓道近的選手権大会 兼 第9回会長杯争奪戦が、63名の参加で、奈良市弓道場で開催されました。

大会は、射手:野尻祥枝 教士六段、第一介添:松村由喜子 錬士五段、第二介添:河野久栄 五段による矢渡しで開始されました。

競技は、四つ矢2立計8射による的中数で競われました。初・弐段の部では2位3位決定の遠近競射、参・四・五段の部では1位2位3位決定の射詰競射があり、朝からの小雨を吹き飛ばす熱戦が繰り広げられました。最高の中数の選手に与えられる会長杯を手にしたのは、男子が新司正人協会会長、女子が西の京高校の水野さらら選手で、新司協会会長は称号の部との2冠

でした。結果は次の通りです。

- 無段の部** : 1位 水野 さらら (西の京高校)
 2位 森田 帆南 (西の京高校)
 3位 奥山 琳果 (西の京高校)
- 初・弐段の部** : 1位 渡辺 茂 (協会)
 2位 木村 知永 (西の京高校)
 3位 増田 春香 (奈良大)
- 参・四・五段の部** : 1位 栄島 なるみ (協会)
 2位 岡本 修 (協会)
 3位 馬場 雄一 (協会)
- 称号の部** : 1位 新司 正人 (協会)
 2位 松村 由喜子 (協会)
 3位 高倉 美香 (協会)



あいにく雨が降る中での大会でしたが63名が参加しました
 (奈良支部 高倉美香)

奈良県中学校総合体育大会弓道の部

団体の部 女子: 樫原中 B、男子: 香芝中 B

**個人の部 女子: 山田(樫原中)選手、
 男子: 片山(天理南中)選手 が優勝**

7月23日(月)、24日(火)奈良県中学校総合体育大会弓道の部が樫原公苑弓道場で開催されました。この大会は平成30年度の3年生最後の県の大会となりました。また、団体または個人で優勝すると、東京で行われる全国大会の出場権を得る試合です。

今年度から2日間の開催となり、1日目は個人戦(各自8射(4射2回)、2日目は団体戦(1チーム24射(各自4射2回))を実施しました。個人戦で決勝に進出したのは女子が5名、男子は3名でした。また、2日目の団体戦では、男女各13チームの参加がありました。今大会の参加者は女子94名、男子65名でした。結果は以下の通りです。

- 女子個人戦** 1位 樫原中学校 山田 春奈
 2位 大成中学校 沼田 優美香
 3位 樫原中学校 古岡 志保
- 男子個人戦** 1位 天理南中学校 片山 創太
 2位 樫原中学校 柳川 勇太
 3位 樫原中学校 木田 尊也



個人戦の入賞者: 左から女子1位 2位 3位、
 男子1位 2位 3位の選手達

女子団体戦

- 1位 樫原中Bチーム (上竹、柏木、都築、土岐)
 2位 白樫中Aチーム (菊地、水脇、廣瀬、井出)
 3位 香芝中Aチーム (中井、堀内、涌田、藤本)



女子団体戦の入賞者: 前列 樫原B
 後列左 白樫A 後列右 香芝A の選手達

男子団体戦

- 1位 香芝中Bチーム (山口、樋口、村上、脇阪)
 2位 白樫中Aチーム (小田、金原、中平、小谷)
 3位 大成中Aチーム (松室、田中、内ノ浦、飯塚)



男子団体戦の入賞者: 前列 香芝B
 後列左 白樫A 後列右 大成A の選手達
 (中体連 中前 芳一)

編 | 集 | 後 | 記

全国大会での若い世代の素晴らしいニュースが届きました。全国高等専門学校弓道大会で奈良工業高専が優勝、また、全国中学生弓道大会では、男子団体、女子団体、女子個人で入賞されました。おめでとうございます。上田先生にはご多忙の中、自らの師との出会いについて随想を書いていただきました。人生において尊敬できる師との出会いは貴重な体験ですね。

編集担当 野尻賢司